

2024年度 事業報告書



一般社団法人
ニューロダイバーシティ協会

代表理事 市田 悠貴

2025年6月17日

CONTENTS

1 一般社団法人の状況に関する重要な事項

1.1 総括

1.2 事業ごとの経過や成果

1.3 法人をめぐる経済環境および事業を実施している業界の状況

1.4 業界の中における自社の生産や仕入れ及び販売などの状況と収益状況

1.5 その他の重要事項

2 業務の適正を確保するための体制の整備に関する事項

2.1 理事の職務執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

2.2 理事の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

2.3 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

2.4 理事の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制

2.5 使用人の職務が法令及び定款に適合することを確保するための体制

1 一般社団法人の状況に関する重要な事項

1.1 総括

法人化に伴い、活動インパクトと収入基盤の拡大が順調に進んだ。今後に向けては、仕組み作りや組織力の強化によって主要メンバーへの属人化を防ぎ、持続的な活動基盤を築くことが急務だと考える。また、当法人の理念である「周りと違って活躍できる社会」に向けて、各種ニーズへの対応を進めていきたい。

1.2 事業ごとの経過や成果

1.2.1 カンファレンスの企画・準備

落合陽一氏と伊藤穰一氏を招き、職場におけるニューロダイバーシティに関する対談などを行うイベントを2025年11月に予定しており、その準備を進めている。

URL：<https://dioden.org/neurodiversity-paradigm/>

1.2.2 法人向けニューロダイバーシティ研修・コンサルティング・監査

メンバーが個人で行っていた講演などの法人への移管を進めており、協会の収入の柱とすることを目指して体制整備を進めている。今年度は国内の有名大学の研究者や海外の専門コンサルタント等との提携を行った。

URL：<https://dioden.org/sessions.html>

1.2.3 オンラインコミュニティの運営

Discordと呼ばれるプラットフォームを用いてオンラインの自助会を運営している。会員数は順調に増加しており、2025年6月16日現在で286人である。

本年度からは新たにLINEオープンチャットと呼ばれるプラットフォームを用いた自助会も設置し、非Discordユーザーへのサービス提供を補完した。

1.2.4 ニューロダイバーシティに関連するパターン・ランゲージの制作・研究

パターン・ランゲージ全文の制作が完了し、国際学会（AsianPLoP）での発表を行った。また、完成したパターン・ランゲージを生成AIと連携させることでニューロダイバージェントの多様な特性への対応を可能にするプロダクトのβ版を開発し、下記URLで試験的に公開している：

URL：<https://neurodivergent.yuki-lab.com>

1 一般社団法人の状況に関する重要な事項

1.2.5 ニューロダイバーシティのためのAI開発

OpenAI社のGPTs などを用いて、ニューロダイバージェントのQOL向上のためのAI活用サービスを複数提供している。利用数は合計6000回超で、複数のニューロダイバージェントから「生活に役立っている」という趣旨のフィードバックを得た他、星評価でも4以上を維持している。

URL：<https://dioden.org/neurodiversityAI.html>

1.2.6 ニューロダイバーシティ専門メディアの運営

ブログ・YouTube共にアクセス数は堅調で、肯定的なフィードバックを頂いている。外部メディアに対しては、代表理事の市田が「月間総務」への寄稿を行った。今後はSEO強化やコンテンツ数の拡大、及び外部メディアとの連携に注力したいと考えている。

ブログ：<https://ndnews.site/>

YouTube：<https://youtube.com/@DiODEN/>

1.2.7 発達障害当事者Wiki

コンテンツ数や閲覧数の伸び悩みを考慮し、事業を縮小する方針である。

<https://dioden.org/wiki/>

1.2.8 外部プロジェクトへの参画・協賛

任意団体時代から参画している「日本橋ニューロダイバーシティプロジェクト」に加え、今年度は「ニューロダイバーシティ・インクルージョン・フォーラム」への協賛を行った。

1 一般社団法人の状況に関する重要な事項

1.3 法人をめぐる経済環境および事業を実施している業界の状況

DE&Iに関する取り組みや業界は特にアジア圏で拡大しており、新興のニューロダイバーシティ領域では国内で急速に取り組みが進んでいる。一方で、いわゆるDE&Iバックラッシュ等の課題も生じており、変化し続ける業界への対応やイニシアチブが重要だと考えている。

情報技術を活用してマイノリティの生活を改善する取り組みや業界は、その社会的意義を増している。IT業界のダイナミクスを活かし、ニューロダイバーシティAI事業やWeb事業などに引き続き注力していく。

発達障がい/神経発達症に関する取り組みや業界は世界的に拡大しており、社会的意義が高まっている。排除ではなくインクルージョンや公正な環境づくりを進めることに協会として取り組んでいく。

1.4 業界の中における自社の生産や仕入れ及び販売などの状況と収益状況

協会では主にオンラインで活動を行うことでコストを効果的に削減している。収入は順調に推移しているが、少額で不安定であるため引き続き収入拡大を目指していく。

1.5 その他の重要事項

- 1.2.4項で言及した「ニューロダイバーシティに関連するパターン・ランゲージ」については、制作者の著作権を当法人に集約する方向性で協議を進めている。
- 代表理事の市田は来年度に大学を卒業する予定である。

2 業務の適正を確保するための体制の整備に関する事項

2.1 理事の職務執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

法令および定款を確認し、専門家と相談しながら職務執行を行っている。また、理事の職務執行について社員総会やオンラインツールを通じて情報共有を行っている。

2.2 理事の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

主たる事務所にある保管庫、またはクラウド・コンピューター上に保存・管理している。

2.3 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

定例会議での相互チェックや、セルフチェックを行っている他、標準的なセキュリティ慣行を意識して管理を行っている。

2.4 理事の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制

オンライン化や生成AIの活用を行い、業務の効率性を高めている。

2.5 使用人の職務が法令及び定款に適合することを確保するための体制

専門家と相談しながら、法令および定款の内容を踏まえてマネジメントを行っている。